

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	スワールキッズ奈良教室		
○保護者評価実施期間	2025年10月14日		～ 2025年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40人	(回答者数) 18人
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p><b>専門性の高い“個別最適な学習・理解支援”の体系化</b></p> <p>「特性に合わせた専門性のある支援」に高評価が出ており、学習面でも“工夫が伝わっている”状態です(はい17/18)。さらに、教員免許保有者や特別支援学級担任経験者が在籍し、学習カルテで個別調整しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員免許保有者5名在籍でその内3名が特別支援学級担任経験など、学校現場の知見を学習支援に活用している。(令和8年3月)</li> <li>●子どもごとの「学習カルテ」を作成し、つまずき・得意・取り組みやすい方法を整理し、当日の状態に応じて課題を調整している。</li> <li>●アセスメントが的確：つまずきの原因(理解/注意/手順/不安/感覚過敏など)を切り分け、必要な支援を選んでいる。</li> <li>●教材準備が的確：その子に合う難度・提示方法・量に調整し、取り組める形にしている。</li> <li>●モチベーション支援が得意：特性に合わせて「一番落ち着いて学習できる環境」を整え、声かけや課題量の調整で“向かえる状態”を作れている。</li> </ul>	<p><b>スワールの強みを活かし「学習を生活・プログラムに接続」して般化を起こす</b></p> <p>狙い：学習支援を「机上の練習」で終わらせず、料理・工作・外出・運動など得意なプログラムに接続して、理解が定着しやすい形にする。</p> <p>具体策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学習目標を“活動場面”に埋め込む(例)</li> <li>●計算 → おやつ作りの「個数分け」「買い物合計」</li> <li>●読み → 手順書の読み取り</li> </ul> <p>「正解した/しない」だけでなく、見通しをもつ/助けを求める/集中/やり直すを一緒に評価して伸びを可視化(スワールの強み領域)</p>
2	<p><b>生活力・ポータブルスキルにつながる“プログラム設計力”の深化</b></p> <p>プログラム満足は「はい17/18」で、外出・体育館活動・料理/お菓子作り・結び・日々の学習サポートが具体的に評価されています。</p> <p>また、料理や結びを「できる/できない」ではなく、手順の見通し・集中・助けを求める力等のポータブルスキル獲得に位置付けている点が明確です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●料理・結び等を、生活力だけでなく「見通し」「両手協応」「集中」「助けを求める」「やり切る」などの汎用スキルに落とし込んでいる。</li> <li>●体育館活動・外出も含めて、ルール・順番・切り替え等につながるよう設計している。</li> </ul>	<p>1) 全プログラムを「ポータブルスキル設計図」で統一(理念に沿ったねらいを明確化)</p> <p>やること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●すべての活動(料理・結び・外出・運動・共同作業)に、</li> <li>①ねらい(ポータブルスキル) ②仕掛け(構造) ③成功体験の作り方 ④振り返り質問をセットにした“設計図”を付ける。</li> <li>●ねらい：手順の見通し/指先操作・両手協応/集中/助けを求める/最後までやり切る等</li> </ul> <p>さらに対人・行動面(挨拶・順番・ルール理解・切り替え等)も必ず紐づける</p> <p>スワールらしさ(理念との接続)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「楽しい活動を並べる」のではなく、環境が変わっても活きる力につながるよう設計する。</li> </ul>
3	<p><b>「安心して通える」を支える安全文化の“見える化”+家族支援の拡充</b></p> <p>通所の安心感は「はい17/18」。安心を支援の土台にし、「見通し」「気持ちの変化への丁寧な対応」「特性に合わせた関わり」を積み重ねていると明記されています。</p> <p>一方で、非常時対応や訓練は「わからない」が多く、安全への取組が伝わり切っていないことを事業所自身が課題認識しています。</p> <p>加えて、ペアレントトレーニングは「参加したい」9名で、家族支援の伸びしろも見えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安心の土台として、見通しを持てる声かけ・環境づくり、気持ちの変化への丁寧な対応を重ねている。</li> <li>●安全面では、事故防止・緊急時・防犯・感染症等のマニュアル整備と運用、訓練実施を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「安全の見える化セット」を配信：訓練の実施予定→実施報告(気づき/改善点)をHUG等で共有。</li> <li>●事故連絡の“基準と流れ”：どのケースで、いつ、何を、どこまで共有するかを検討。</li> <li>●家族支援の拡張(段階的に)：</li> <li>●まずは“相談の入口”を明確にする(相談できるテーマ例・申込み方法)</li> <li>●次に小規模の勉強会→ペアレントトレーニングへ。</li> </ul>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<b>安全・非常時対応に関する情報提供の充実。</b> 事故防止・緊急時対応・防犯・感染症対応等について、事業所内での整備・運用は行っている一方で、訓練の実施状況や内容が保護者の皆さまに十分伝わり切っていない可能性があるため、情報提供の充実を進めます。	保護者の皆さまにとって「どのような取組を、いつ、どのように行っているか」が分かりやすい形になっていなかったことが背景にあると考えています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●訓練の実施予定・実施後の概要（内容／気づきなど）を、HUG等を通じて分かりやすくお知らせします。</li> <li>●「安全を確保するための計画」について、要点を整理した資料の共有や定期的な周知を行います。</li> <li>●事故等が発生した場合の連絡・説明について、連絡基準や共有内容を分かりやすく整理し、入所時や年度初め等に周知します。</li> </ul>
2	<b>家族支援（相談支援・情報提供）の“分かりやすさ”と機会の拡充。</b> 家族支援については、個別相談に応じた助言・情報提供を行っている一方で、ペアレント・トレーニング等を「体系立てた形」で提供する取組は、今後さらに整えていく段階であるため、内容と機会の充実を図ります。	日々の支援の中で個別相談対応は行えている一方、保護者の皆さまが「必要なタイミングで利用しやすい形」や「取組み内容が伝わる案内方法」について、改善の余地があると捉えています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現在行っている家族支援（困りごとの整理、関わり方のコツ、事例共有等）を、分かりやすい形でご案内し、相談しやすい体制づくりを進めます。</li> <li>●ペアレント・トレーニングの実施に向け、職員の外部研修受講等を通じて準備を進めます。</li> <li>●併せて、保護者同士の情報交換の場についても、まずは小規模な情報共有会など無理のない形から検討します。</li> </ul>
3	<b>地域・関係機関連携の“機会づくり”の充実。</b> 地域の子どもの交流機会や、移行支援・関係機関連携の一部について、今後さらに取り組みを広げていく余地があるため、実施可能な形で機会づくりを進めます。	平日の運営上、放課後児童クラブ・児童館等との定期的な交流は時間面で難しい側面があり、継続可能な方法を選びながら進める必要があると考えています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期交流に限らず、地域資源の活用（体育館・公園等）を通じて、地域の場での経験を積む機会を継続して確保します。</li> <li>●あいさつ・順番・ルール理解・切り替え・助けを求める等のポータブルスキルを日々育て、将来の地域生活につながる力の土台づくりを続けます。</li> <li>●就学前機関との情報共有、卒業後の移行支援、児童発達支援センター等との連携機会についても、実施可能な形で整備を進めます。</li> </ul>